

## 平成 21 年度 スタンフォード大学海外研修 派遣報告書

大阪大学医学部附属病院 医療技術部 東丈雄

### 1. 参加した目的と達成度について

私がこの研修に参加した目的は、日本だけにとらわれず広い視野で世界レベルの最新イメージングがどのような動向を示しているかを知りたかったからである。また、他施設の研修生の方々と交流を持つことも、今後の私にとってとても大切な事であると考えていた。

実際に研修に参加させて頂くと、7T MRI、分子イメージング、最新のイメージング技術が有り、また実際の現場見学も有り、と最新イメージング技術やアメリカと日本の医療体制の違いを知ることができた。

また、本研修においては共同生活を通して他施設の研修生の方々とも、たくさんの情報交換をする事ができ、交流を深め、多くの実りある収穫を得ることができた。

以上に示すように、私が目的としていた達成度については、充分過ぎるほどであったと思う。

### 2. アメリカの放射線診療体制の利点と問題点について

アメリカの放射線診療体制の日本との大きな違いは、モダリティ毎に専門技師が配置されているという点である。

この体制の利点は、勤務自体が専門分野のみであるため、高い専門性を活かしてより高い技術や研究等に専念できる点であると思う。逆に問題点としては、専門的であるがゆえに、夜間の緊急体制が大変なのではないかと感じた。

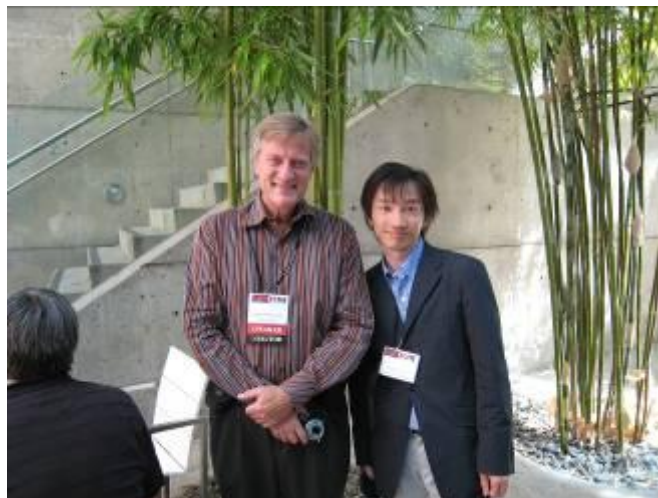
また、日本の診療放射線技師は職域がとても広いと、すぐく恵まれているとも思い、この職域の広さをもっと有効にしなければいけないのではないかと感じた。

### 3. 今回の研修で得られた成果を今後どのように活かすか

この研修で見て学んだ事項については、近い将来必ず日本に入ってくるので、将来を見据えつつ、現状の日本における技術発展や研究活動に努めたいと思う。

今回のこの研修では、アメリカ医療の凄さだけではなく、アメリカを見ることにより日本の良さを実感したところもあった。このことは、これからの私の仕事に大きく影響を与える事であると思う。

この研修は、たくさんの方々のご支援やご協力のもとに成り立っているものと思います。この研修に関わられた全ての方々に心より御礼申し上げます。



気さくでユーモラスな Moseley 先生(左)とともに・・・